

# 不祥事根絶に向けた校内研修

校種：中学校

## 1 研修テーマ

「望ましいコミュニケーションについて」

## 2 研修テーマ設定のねらい

本校では、千葉県において教員の不祥事が後を絶たない状況を鑑み、年度当初から学校独自の不祥事根絶研修資料「アップデート」の発行や、問題別の不祥事根絶研修等を実施している。校内研修においては、学校独自に考案したチェックシートを利用した情報モラルの研修や、社会人権教育地区別研修会において学んだ「機中八策」を応用したアンガーマネジメント研修など、ただちに教育実践に生かせる内容を取り扱ってきたところである。

最近、教職員と児童生徒とのSNS等を利用した私的なやりとりを発端とした事故が増加している。懲戒処分の指針においても、児童生徒とのSNS等を利用した私的なやりとりは禁じられているにもかかわらず、同様の事案が根絶できていない。県教育委員会発出の通知によれば、不祥事を起こした職員の多くが、「これくらい大丈夫」という安易な考えをもっていたことが分かる。このことから、職員一人一人に、児童生徒とのどのようなやりとりが不祥事に繋がるのかを想像させ、当事者意識を醸成することが急務であると考え、本テーマを設定した。

## 3 研修実施までの流れ（準備）

### (1) 「望ましいコミュニケーション」についての全体研修

まず、県教育委員会の悉皆研修である、「不祥事根絶動画6 望ましいコミュニケーション」の資料を活用した全体研修を実施した。同研修資料は、わいせつ事故に至る経緯や事故の背景に迫るために、非常に有効な資料である。全体研修では、不祥事根絶の要点について、管理職から指導を行った後、職員一人一人にセルフチェック及び決意表明の提出を求めた。研修の終了時には、セカンドステップとして、本校オリジナルの不祥事根絶研修動画を作成するため、不祥事根絶動画作成委員を各学年から募集した。

### (2) 不祥事根絶動画作成委員会の活動

まず、各学年から選出した委員計4名及び教頭の計5名が、学校において想定される、児童生徒との不適切な関わり方について、どのような場면을再現すればよいか、意見交換を行った。その結果、生徒が職員に相談を持ちかける場面が多いのではないかという結論に達した。

次に、想定される危機的な場면을いくつか設定した。具体的な行動や台詞は、職員が意見を出し合って決定した。

その後、役割分担（先生役、生徒役）を決めて撮影を行い、約5分程度の研修動画を完成させることができた。なお、同委員会の活動は、部活動休養日の放課後に行い、計2回（1回あたり30分程度）の会議で、撮影終了まで完了することができた。

## 4 研修当日の流れと時間配分（総時間：25分）

### (1) 全体研修の振り返り（1分）

前回の校内研修で扱った、「望ましいコミュニケーション」の内容について、全体で振り返りを行う。

(2) 今日のテーマの提示とねらい（1分）

職員と生徒との関わりについて、不適切な点はないか、どのような点に注意しなければいけないか、オリジナル動画の視聴を通して気づいたことを意見交換し、職員一人一人の当事者意識を醸成することをねらいとすることを説明する。

(3) オリジナル不祥事根絶研修動画の視聴及び問題点の洗い出し（8分）

ア 不祥事根絶動画を視聴する。

イ 動画を視聴して気が付いたことを、ワークシートに記入する。

(4) 意見交換（10分）

ア 小グループ（4名程度）で、気が付いたことについて意見交換する。動画作成に関わった職員は、各グループでの意見交換の進行を担当する。

イ 各グループの代表1名が、意見交換した内容を全体に発表する。

ウ 動画に出演した職員が、実際に役割を演じた感想を発表する。

(5) 振り返り（5分）

研修を振り返り、気が付いたことや今後気をつけたいことなどをワークシートに記入する。

5 研修で活用した資料

- ・ オリジナル不祥事根絶研修動画「望ましいコミュニケーション」
- ・ ワークシート1枚（別添資料参照）

6 研修参加者の声

- ・ 研修動画作成に参加した職員からは、「実際に役割を演じたことで、SNSを利用したやり取りの怖さを実感することができた。」という感想を聞くことができた。
- ・ 他の参加者からは、「若手の熱心な優しい先生が、このような状況になりやすいので、先輩教員として、注意や助言をしっかりしていきたい」、「周囲からどう見られているかという視点で、自分の言動を今まで以上に気をつけたい」、「動画に出演した先生の話聞いて、誰でも当事者になり得ることが分かり、怖くなった。」等、一人一人の職員が、当事者意識をもって研修に臨むことができたことが分かる感想が多かった。

7 研修の成果と課題

(1) 成果

- ・ 職員自身が、生徒との不適切な関わり方を体験することで、当事者意識を持たせることができた。
- ・ 動画を視聴する側の職員も、同僚が出演していることで、身近な出来事のように受け入れ、意見交換においても、実際にあったことのように助言をしたり、注意喚起をしたりする場面が見られた。

(2) 課題

- ・ 男女間のやりとりや、露骨なわいせつな言動については、職員に嫌悪感を抱かせる恐れがあるため、今回は扱うことを避けた。より危機感を持たせたい場合は、慎重に内容を検討する必要がある。